

副校長・教頭研修② まとめ



令和2年8月31日（月）

Web会議による遠隔講義

「自然災害に対する防災教育の現状と展望」

講師 藤岡 達也 氏（滋賀大学 教授）

【研修のねらい】 ■地域と連携した災害に強い学校づくりについて理解を深め、副校長・教頭として学校運営能力の向上を図る

これからの防災教育
に期待したいこと

講義内容

コロナ禍での学校安全・危機管理

①地域と連携した避難所運営 ②学校安全と副校長・教頭の役割地域に根差した学校防災の動向と課題

①大川小学校の悲劇と学校危機管理 ②鳥取県の自然災害と教訓

- 重要
- 1 身近な地域の過去の災害を知ることが将来の備えにつながる
 - 2 移動の著しい時代、自分や次世代はどこにいるか分からない（他地域の自然災害の理解、津波、火山も）
 - 3 防災（災害安全）は安全・危機管理の基本（生活安全・交通安全も含む）となる
 - 4 先行き不透明な時代に「生きる力（生き抜く力）」を培う
 - 5 学校と地域との新たなつながりを考える

引き渡しについて

安全配慮義務と
教員・学校の責任

「安全が確保されない限り、児童を引き渡すべきでなかった」

「事前に登録した保護者が引き取りに来るまで、学校での保護を継続すべき義務があった」

Point

校長らに必要とされる知識や経験は住民の平均よりはるかに高いレベルでなければならない

身近な地域を知る

- ・地域のことや学校の特徴を知った上での防災教育でないといけないのだと痛感した。学校の建物から危機を予測して管理し、負傷を減らすことを考えていきたい。
- ・職員研修において地域の過去の災害がどのようなものであったかを調べ、想定される危険な状況を出し合いながら、どのような方策が考えられるか職員で考えていきたい。

防災意識

- ・豪雨による土砂災害や水害、温暖化による猛暑など人間の力ではどうしようもない自然災害の多発に加え、新型コロナウイルス感染症によって、学校の危機管理が問われる時代が今以上に有ったろうかと感じている。管理職としても見通しを様々な場面予想とともに持てるよう、危機管理意識を高めていきたい。

防災は危機管理の基本

- ・本校も避難所に指定されており、災害対応の必要があるが、資料もざっと読んだだけで済ましていた。しかし、普段からの心構えや準備が災害時に役立つと改めて感じ、具体的な対応を準備しておく必要があると感じた。
- ・大川小学校の件では「迷ったら安全を優先する」気持ちを持つことが、子供達や職員の安全につながると確信した。管理職としての責任を再確認した。
- ・本校では、土砂災害の避難訓練を新たに入れたが、公民館等地域と一緒に訓練をして話し合う機会も作っていききたい。児童の命を守ることに、避難所として地域の方を守ることは、日頃の危機管理意識とつながっていると学んだ。気を引き締めて携わっていききたい。
- ・防災の観点から職員室の整理整頓についても声かけを行っていききたい。

生きる力を培う

- ・「防災教育」は、色々な意味で先行き不透明な時代に「子どもに『生きる力』を育む」と先生の言葉にあった。「常に自らの身を守るための教育・学習」としての捉え、指導者・学習者共に防災意識を高めていけるように研修を積み重ねたい。

学校と地域の新たなつながり

- ・日常から、非常時を想定した準備や心構えが必要と感じた。学校備蓄の例があったが、生徒の命を守るだけでなく、地域住民が避難した時にどう対応ができるか改めて考えさせられた。学校が単独で災害に備えるのではなく、地域と連携した対応を考えていかねばならない。校内組織がしっかりしたものでなければならぬと感じた。
- ・いざという時に備え、普段から知識や情報を収集しておくことは大切である。学校に求められている要求も高い。校内研修等で、職員にも周知したい。 ～部分抜粋～

研修で
学校が
変わる

副校長・教頭
として私は
学びをこう活かす